



皆さんこんにちは。呼吸器内科の伊藤です。

呼吸器の病気に関するコラムの第2回です。今回は COPD(慢性閉塞性肺疾患)とたばこのお話しをしようと思います。お気軽におつきあください。

◎伊藤秀幸（いとう ひでゆき）医師

主な経歴：東京女子医科大学第一外科

国立国際医療研究センター呼吸器外科

COPD は Chronic Obstructive Pulmonary Disease の略です。以前は肺気腫と慢性気管支炎という名前と呼ばれていた病気を総称して慢性閉塞性肺疾患（COPD）というようになりました。たばこなどの有害物質を長期間吸い込むことで、気管支や肺に慢性的な炎症がおこり、肺胞壁の破壊や気道のむくみなどが引き起こされる病気です。破壊がすすむと元にはもどりません。肺活量も経年的に低下していきます。症状がでてきたときにはかなり進行した状態になっていることが多いので、早期に対応することが必要な病気なのです。

タバコが関係する病気

たばこの煙は COPD の最大の危険因子とされています。COPD 患者さんの 90% に喫煙歴があります。もちろん喫煙者のすべてが COPD になるわけではありません。発症に関しては遺伝子などの関与もあると考えられているのですが、だからといって、たばこを吸っても大丈夫ということにはなりませんね（笑）

症状と診断、治療

駅の階段や坂道で息切れがする。同年代の人に比べて運動能力が劣っている気がする。朝おきると痰がからむ。風邪をひくと咳や痰が多くて長引く。こんな症状はありませんか？ あなたがたばこをすっているなら要注意です。病院で医師の診察、肺活量の検査や CT などの画像検査をして早期診断につなげましょう。たばこをすっているなら禁煙が第一にすべきことです。禁煙せずに薬の治療はありえませんよ。今は新しい吸入薬などの製剤がどんどん使えるようになってきましたので、進行した病状のかたでも治療の選択肢はひろがっています。呼吸リハビリなども有効です。医師にご相談ください。

健康保険でできる禁煙治療

禁煙治療にはニコチン補充とバレニクリンという飲み薬があります。2006 年より禁煙治療には健康保険が適用され、患者さんの負担も軽くなりました。当院ではバレニクリンの処方を行っていますが、以前より成功率も高くなっています。興味のあるかたはぜひ気軽に外来にお越しください。